

X315

三井化学の組織横断的オープンラボラトリー活動

“そざいの魅カラボ (MOLp®)”

～ 研究者が自ら世の中に問く熱量コミュニケーション ～

(三井化学) (法人) 宮下 友孝*

1. はじめに、三井化学とは・・・

三井化学は福岡県大牟田市の三池炭鉱を起源とする。当時の社会課題である人口急増による食料不足に対応するために1912年に石炭コークスの副生ガスから日本で初めて肥料を作り出した。食料転作による藍作付面積削減による藍色文化存続危機に対応すべく、1932年日本で初めて合成インジゴの生産に成功。また産業の近代化にともない新素材の国産化として、日本初の石油化学コンビナートを1958年に建設した。三井化学の歴史は社会課題の解決から始まったと言える。現在は、ライフ&ヘルスケアソリューション事業、ICTソリューション事業、モビリティソリューション事業、ベーシック&グリーンマテリアルズ事業の4分野に注力し、これまで行ってきた原料だけではなく、より社会実装しやすいカタチのソリューションまで提案していく、素材発信型のソリューションプロバイダーを目指している。

2. 三井化学の組織横断的オープンラボラトリー活動 MOLp® (モル、そざいの魅カラボ) とは？

2015年3月から始まった三井化学の社員発案によるボトムアップの活動。MOLp® (モル、そざいの魅カラボラトリー) (図1) は、“感性からカガクを考えるラボラトリー”として発足。3期目の活動に突入し、この3月で8年目に突入する企業でのボトムアップ活動としては長寿命な活動となっている。活動内容は素材を介した新しいコミュニケーションを創り出すことであり、新しいコンセプトを通じて、素材の価値や魅力を再編集し、人々の Wants を追求、組み合わせることで、新たな顧客価値を創造し、素材の新たな市場を創出することを目的としている[1,2]。

活動で最も重要視しているのは、“Fun Theory”。面白い、楽しいという内発的な動機で、研究者が自主的に参加する。事業部や研究所のように組織化（部署化）することは、

これまでもこれからも一切拒否し、心理的安全性が確保できる“砂場”のような部活動を体現している。今や社長や役員などが積極的社外発信する活動となっている。

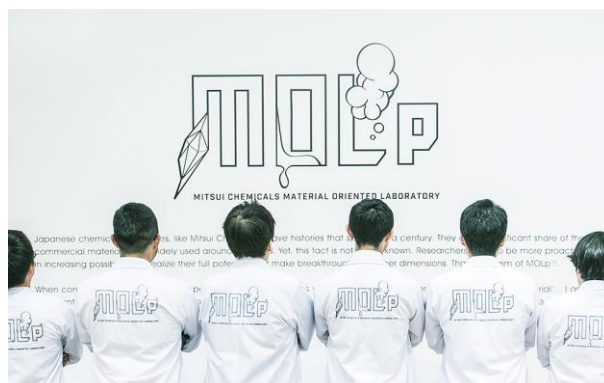


図1. そざいの魅カラボ (MOLp®)

3. 活動内容

毎月半日程度の時間に“雑談”が行われる。コロナ禍のお陰で、リアルとオンラインをつなぐハイブリッド開催が当たり前になった。以前は地方勤務者、海外勤務者のハードルを上げていたが、現在は国内外からも参加機会を設けている。この雑談から生まれるアイデアは、本来の業務では取り組まないものの、面白くて楽しそうなものを社員が持ち込み、それぞれの参加者の個性、特技や業務視点から意見交換が行われる。アイデアをより具体化するために、ラピットプロトタイピングの手法を用いてカタチづくりさらにコミュニケーションを進めている。

毎年と決めてはいないが、メンバーの毒素がたまりにたまった段階で、社外に自分たちの考えをお披露目していくために、単独で展示会を開催する。研究者が自ら一線に立ち、消費者の方々とコミュニケーションを行う単独展示会で、研究者が世の中の消費者に対して、自分のメッセージとしてプロダクトについて語り、理解を深め、共感をして頂く。共感を頂けるころになれば、実際にプロダクトをその場で販売し、それをご自宅にお持ち帰り頂いて、更にコミュニケーションが広がっていく。このようなコミュニケーションが生まれることにより新たなコラボレー

ションが生まれる結果を招いている。

オウンドメディアでの情報発信、これまで作ったプロトタイプの一部を EC サイトで販売を行っている。アイデアを考え、コミュニケーション方法を考え、売り方を考え、実際に売ってみる。B2B 企業でやってこなかったことを“実験的に”実践する部活動、それが MOLp®である。

近年の採用活動においては、「MOLp をやりたい」ということが志望動機の 1 つとする人が増えてきている。彼ら、彼女らは入社するや否や、MOLp のメンバーとしてその個性を発現して一線で活躍している。もともとは、社員や研究者のエンゲージメントを高めることを目的としていたが、採用活動においても効果を発揮し始めている。

4. これまでの活動と成果など

- ・ 2015年6月 MOLp 活動立ち上げ
田子學氏をクリエイティブパートナーに選定
- ・ 2016年6月 IFFT ライフスタイル展に出展（初）
- ・ 2018年3月 MOLp Café 2018開催
（初めての単独展示）テーマ：mixology
- ・ 2021年7月 MOLp Café 2021開催
（2回目の単独展示）テーマ：neo“PLASTIC”ism
- ・ 2021年10月 MOLp Café 2021リピート開催
- ・ 2022年4月 ニコニコ超会議2022“超アリエナイ理科の実験”に出展（Youtuber くられ先生、ツナっち、市岡元気先生などコラボレーション）
- ・ グッドデザイン賞 BEST100受賞
（2018年、NAGORI®）
- ・ テレビ東京/WBS トレたま年間大賞受賞
（2018年、スキンパック包装）
- ・ Japan Branding Awards 受賞
（2021年、MOLp®活動）
- ・ 社内研究所イノベーションアワード金賞受賞
（2022年）

5. これからの展望

日本で初めて石炭化学、そして石油化学に挑戦した先人たちの挑戦の経験を元に、カーボンニュートラルに向けたバイオ

マス化あるいは新しい資源を用いた時代へ向けて、素材の魅力、使い方、使われ方、捨て方などを発信していきます。

講演では、この活動がなぜ始まったのか、その結果、社内、研究者自身にどのような変化がもたらされているのかということ、事例を通じてご紹介いたします。

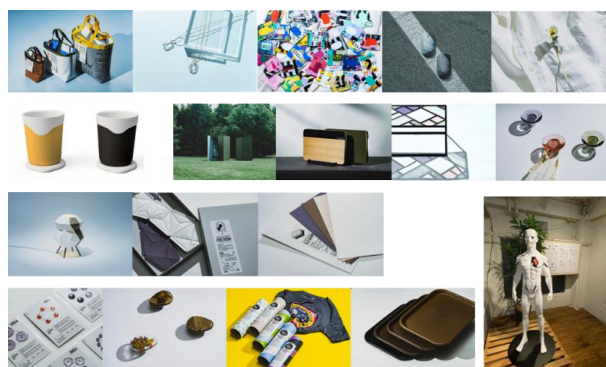


図2. MOLp Café 2021で発表したプロトタイプ（抜粋）

参考文献

- [1] MOLp オウンドメディア：
<https://jp.mitsuichemicals.com/jp/molp/>
- [2] MOLp EC サイト：<https://molpec.com/>

* Tomotaka.Miyashita@mitsuichemicals.com